

ブラジル政府、風力発電所の建設と並行して送電線連系を捩入れ¹

新エネルギー・国際協力支援ユニット
新エネルギーグループ

ブラジル政府は現在、風力発電所の建設と並行して送電網への連系を捩入れしている。

8月下旬にリオ・デ・ジャネイロで開催されたBrazil Windpower 2014 会議では、ブラジルの風力発電容量が8月に5GWに達したことが報告された。ブラジル風力発電協会（Abeeólica）によると、特に過去1年間の導入量はめざましく、2014年6月時点の風力発電容量は前年同期比63%増となった。今年の残りの期間に政府が実施する3回のオークションを考慮すると、2014年末までに承認される新規風力プロジェクトの発電容量は合計3GWに上る²と同協会は予測している。また、ブラジル鉱物・エネルギー省は8月半ば、国内の風力発電容量が2023年までに22.4GWに達する見込みであるとの予測を示した。

しかし、こうした積極的な導入政策の一方で、ブラジルの風力発電は送電線への連系遅れの問題に悩まされてきた。特に、バイア州やリオ・グランデ・ド・ノルテ州などブラジル北東部に建設された風力発電所は2012年以来、環境認可が進まないことなどを理由に送電線の建設が立ち遅れた。昨年5月時点で、北東部では合計622MWもの新規風力発電容量が稼働できないまま立ち往生していると報じられた。過去2年間、国内で未稼働状態に置かれた風力発電容量は1GWに上り、開発会社のコストを圧迫している。

こうした状況を是正するため、政府は昨年8月のオークション以降、落札した風力開発会社に対して自力での送電線設置を義務付けた。その後の進捗状況は明らかではなかったが、最近になって送電線への連系計画が進んでいる様子が伝えられている。報道によれば、2014年上半期に国内で1.2GWの新規風力発電設備がグリッドに接続された。

政策面での後押しもあった。政府は今年7月、国の南部と北東部で計画されている風力発電所の建設に先立ち、約4,000kmの送電線のオークションを行う計画を明らかにした。これまでは送電需要の不足に対する懸念から、政府は発電事業者と電力購入契約を結んだ後に送電線のオークションを行っていたが、今後はその時期を大幅に早める。

その第一弾として、政府は今年12月、南部地域³に建設される風力発電所向けに5.6GWの送電線（2,400km）のオークション実施を予定している。送電線の建設費は22億レアル（約1,027億円）、完成は2018年を見込んでいる。また、北東部でも2018年までに1,643km

¹ 本稿は経済産業省委託事業「国際エネルギー使用合理化等対策事業（海外省エネ等動向調査）」の一環として、日本エネルギー経済研究所がニュースを基にして独自の視点と考察を加えた解説記事です。

² これらの風力発電所は2019年までの完成を見込んでいる。

³ Coxilha de Santana、Escudo Rio-Grandense、Litoral Sul、および Costa da Lagoa dos Patos

の送電線を建設し、計 8.75GW の新規風力発電容量を系統に接続する計画である。並行して、政府はすでにオークションを実施したプロジェクトの系統連系状況を確認するための調査も開始した。

ブラジル政府にとって、野心的な風力導入政策と送電網整備計画の足並みをどう揃えていくかが、引き続き課題となる。

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp